

＜本学の図書館等の変遷＞

- ・昭和 41 年 3 月 高知女子大学附属図書館新館落成
- ・昭和 62 年 6 月 附属図書館増改築着工
- ・昭和 63 年 10 月 附属図書館開館
- ・平成 10 年 4 月 看護学部、社会福祉学部、大学院看護学研究科（修士課程）新設。
高知女子大学保育短期大学部廃止
- ・平成 14 年 4 月 図書館と情報処理センターを統合し、高知女子大学・高知短期大学総合
情報センターを設置。
- ・平成 23 年 4 月 大学の設置者を高知県から高知県公立大学法人に変更
校名を高知県立大学に変更
男女共学化
- ・平成 27 年 4 月 公立大学法人 高知工科大学と法人統合
文化学部の定員増、県内大学で唯一の夜間主の設置
- ・平成 27 年 12 月 新永国寺図書館着工
- ・平成 29 年 4 月 新永国寺図書館開館、3 大学による図書館の共用

- 平成 25 年 3 月に永国寺キャンパスに工科大の経済・マネジメント学群を設置することが決まってから、女子大、高知短大、工科大間の協議が始まった。老朽化の激しい永国寺キャンパスの再整備を行い、南海トラフ地震の災害にも耐える、学生が安心して学べる教育環境の整備と、社会貢献に寄与する『知の拠点』として県民に開かれたキャンパスとすることが基本方針とされた。
- 平成 27 年 4 月永国寺キャンパスの整備計画のうち、新築の教育研究棟と耐震補強工事を行った南舎が供用開始となり、平成 29 年 4 月に体育館と永国寺図書館が新築され、平成 30 年に知の拠点としての整備が完成した。
- 一方、高知短大においては、これまでの大学改革の歴史と果たしてきた重要な役割が認識され、同年 4 月、高知県に初めての 4 年制の夜間高等教育課程を整備、働きながら学ぶことを願う人々の『学びへのあこがれ』を実現する機会が拡大された。
- 平成 27 年には、高知工科大学と法人統合し、3 大学による図書館の共用が開始され、平成 29 年 4 月新永国寺図書館が開館の運びとなった。この新図書館は、アクティブラーニングの機能も一部備えたラーニング・コモンズを般置しており、1 階をゾーニングし、ディスカッションエリアは防音仕様とし、自由に組み合わせることができる什器の配置により、学生が自由に議論できる環境を実現している。また、集いのエリアは、これまでの静かな図書館と異なり、お茶などを飲みながら来館者同士で会話ができる環境を整えており、公立大学の図書館として、学生や教職員ばかりではなく、県民も「集える」図書館を目指している。